

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
4	佐野 智昭（6）	<p>1. 田子の浦港のにぎわいづくりを官民協働で計画的・戦略的に推進し加速させていくために</p> <p>田子の浦港振興ビジョン（以下「本ビジョン」という。）のにぎわいづくり編は、平成30年3月におおむね10年後の将来を見据えて改訂され、今年が中間年である短期終了の5年目に当たる。</p> <p>この間の状況を振り返ると、2年以上にわたる新型コロナウイルス感染症の流行、ここ数年のしらすの不漁は、にぎわいづくりに対して大きなダメージとなっている。</p> <p>また、令和3年6月定例会では、「田子の浦港振興ビジョン早期実現を求める陳情」が出され、5項目について早期実現を目指し、目標年度を設定しての進行管理が要望された。議会としては、市当局の所見に対して、市が強いイニシアチブを取って推進することという要望を付して了承したところである。それを受けて市当局では、田子の浦港振興ビジョン推進協議会にぎわいづくり部会の下部組織として設置した「にぎわいワーキンググループ」において、主にプロムナードゾーンについて検討し、整備の方向性が示されたところである。</p> <p>その他、令和元年11月には田子の浦港周辺施設が「みなとオアシス田子の浦」に登録され、令和3年4月には鈴川海浜スポーツ公園が完成している。</p> <p>このように、田子の浦港を取り巻く社会・経済情勢は大きく変化し、新たな局面を迎えていると言える。また、本ビジョンに示されている取組内容についても、状況が変わってきているもの、実現の目途が立っていないもの、変更が必要なもの、既に実施し検証が必要なもの、新たな位置づけが必要なものなどがあるとともに、総体的に進捗状況は遅れているように感じる。</p> <p>本ビジョンには、「社会・経済情勢の変化などがあった場合は、必要に応じて見直しを行う」と明記されており、まさに今がそのときではないかと考える。</p> <p>そこで、本ビジョンの内容や進捗状況を検証し、改めて将来に向けた田子の浦港の在り方を静岡県、富士市、関係機関・企業、市民等が共有し、その実現のための各種取組・施策を協働で計画的・戦略的に推進し加速させていけるよう、本ビジョンや関連計画の改訂が必要であると考え、以下質問する。</p> <p>(1) 本ビジョン策定の目的である観光・交流の促進によるにぎわいづくりの創造について伺う。</p> <p>① 観光・交流の促進によるにぎわいづくりの創造とは、どのような状態をイメージしているか。</p> <p>② 観光・交流の促進によるにぎわいづくりの創造についての現時点での達成度は、総体的に見てどの程度であると認識しているか。</p> <p>(2) 本ビジョンの基本目標に対する現時点での成果と課題について伺う。</p>	市長 及び 担当部長

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
4	佐野 智昭（6）	<p>① 基本目標Ⅰの「拠点内にたまるにぎわいづくり」に掲げられている、田子の浦港漁協食堂、ふじのくに田子の浦みなど公園のにぎわい拠点機能の強化についての成果と課題をどのように捉えているか。</p> <p>② 基本目標Ⅱの「拠点間をつなぐにぎわいづくり」に掲げられている、プロムナードゾーンについての成果と課題をどのように捉えているか。</p> <p>③ 基本目標Ⅲの「地域資源をめぐるにぎわいづくり」に掲げられている、田子の浦港周辺の陸上を巡るネットワーク環境、海上で巡るネットワーク動線についての成果と課題をどのように捉えているか。</p> <p>④ 基本目標Ⅳの「戦略的なプロモーションによるにぎわいづくり」に掲げられている、田子の浦港の魅力を知ってもらうための仕掛け、実際に来てもらうための仕掛けについての成果と課題をどのように捉えているか。</p> <p>(3) にぎわいづくりを官民協働で加速させていくための計画の策定について伺う。</p> <p>① 田子の浦港港湾計画（平成13年7月）について、観光・交流の促進を強化した計画に改訂するよう県に求めることはできないか。</p> <p>② 本ビジョンの検証結果やコロナ禍の影響等を踏まえ、改めて観光・交流の促進に関しての田子の浦港の在り方や将来像、基本目標などを明確にし、その実現に向けた各種取組・施策や実施手法、ロードマップ、マイルストーン（節目の目標）などを示す、本ビジョンを改訂してのより具体性のある計画の策定を求めるがいかがか。</p>	市長 及び 担当部長